

# 「象徴空間町民説明会」「象徴空間による白老町活性化推進会議」

## 第2回 合同 学 習 会

日 時 平成26年8月22日(金) 16時～17時

場 所 白老町総合保健福祉センターいきいき4♡6 交流センター

講 師 常本照樹氏(つねもと てるき)

演 題 「象徴空間閣議決定と2020年への道のり」

内 容 平成32年の一般公開が決定した象徴空間の使命や課題、  
地元期待される役割等についてお話いただきます。



講師略歴 アイヌ政策推進会議 作業部会長。

北海道大学法学研究科教授、同アイヌ・先住民研究センター長、法学博士。  
違憲審査制、立法過程論、先住民族の権利等、アメリカ憲法を中心に研究。

主な著書論著 『アイヌ民族と教育政策 - 新しいアイヌ政策の流れのなかで - 』(札幌大学総合研究所ブックレット第4号 2011)、  
「先住民族の文化と知的財産に関する一考察」田村善之編『新世代知的財産法政策学の創成』(有斐閣 2008)、  
「先住民族と憲法」本田俊和ほか『文化人類学研究 - 先住民の世界』(放送大学教育振興会 2005) ほか

### \*今後の学習会等の計画\*

10月まで 視察研修(金沢・松江・松本・太地・丹波・岸和田ほか)  
イランカラフト運動、イランカラフトの日制定

12月まで 第3回合同学習会(27年度概算要求国会通過後)

「公園整備構想について」(仮称) 内閣官房アイヌ総合政策室

「博物館基本計画について」(仮称) 文化庁伝統文化課

#### 【参考】過去の説明会/学習会

H25.11.1 吉田賢司氏(内閣官房アイヌ総合政策室参事官補佐)

武藤高之氏(文化庁文化財部伝統文化課専門官)

H26.4.28 大西雅之氏(鶴雅グループ代表・アイヌ政策推進会議委員)

H26.6.6 小山寛氏(内閣官房アイヌ総合政策室参事官) ほか

## 〔講演要旨〕

- 閣議決定は、2020 年に向けて政府の基本方針を最高レベルで確定し、国内外に政府のアイヌ政策の姿勢を明示するものである。
- 安倍政権の「骨太方針 2014」の中に象徴空間の整備が文言として入った。厳しい財源の中で次年度以降の予算確保に大きな足掛かりができた。
- 象徴空間は、アイヌ文化を拠り所としている人たちにとっては文化を受け継ぐ場。それ以外の人にとってはアイヌ文化について理解を深める場である。
- 建設期間を含め実質的な検討期間があと 5 年しかない。象徴空間オープンに先立ってオープンする慰霊施設については、各大学からの遺骨集約方法や保管管理体制の整備など複数の課題がある。
- 閣議決定文には準備作業にアイヌの主体的な参画が盛り込まれているが、どうしても特定の人や団体に負担が集中する。その手当を考えなければならない。
- 白老町が象徴空間整備やアイヌ文化理解に向けて様々な取組をしていることは承知しているが、札幌など都市部まで届いてこない。取組を目に見える形にすべく、積極的なPR活動をしてほしい。
- 活性化推進会議を中心とした全町的取組の推進、白老アイヌ協会やアイヌ民族博物館などを中心としたアイヌ民族のイニシャチブを白老町へ期待する一方、これら取組が政界や政府関係者、国民、マスコミをはじめとする関係者に見えるようにする工夫が必要だし、白老町への象徴空間設置により、他のアイヌ文化継承地との競争や連携がでてくる。白老がリーダーシップをとってほしい。
- 国の財源の取扱いについては、道内全域にバランス良く配分すると白老への配分額が目減りする。象徴空間は他地域にも波及効果があることを訴え、白老を中心にアイヌ政策が邁進できるように頑張ってもらいたい。